



カーボンニュートラルへの挑戦を、
e-dashと加速させる。

GX普及啓発シンポジウム CO₂排出量算定報告書

e-dash株式会社

実施日：2026年2月19日

報告日：2026年3月9日

目次

- CO2排出量のまとめとその内訳
 - 各排出区分の排出量結果
 - 詳細内訳：Scope 1, 2
 - 詳細内訳：Scope 3
- CO2排出量の算出方法
 - Scope 1の算出方法
 - Scope 2の算出方法
 - Scope 3の算出方法

算定対象イベント概要

対面とオンラインのハイブリッドで開催



イベント名：GX普及啓発シンポジウム2025 第2回

日時：2026/2/19（木）13:30～17:00

会場：イイノカンファレンスセンター ルームA

（東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4階）

算定範囲：イベント会場使用に伴うCO2排出量（Scope 1,2とする）

イベントの運営に伴うCO2排出量（Scope 3とする）

Scope 3は「移動」「輸送」「購入」「廃棄」を算定



CO2排出量のまとめとその内訳

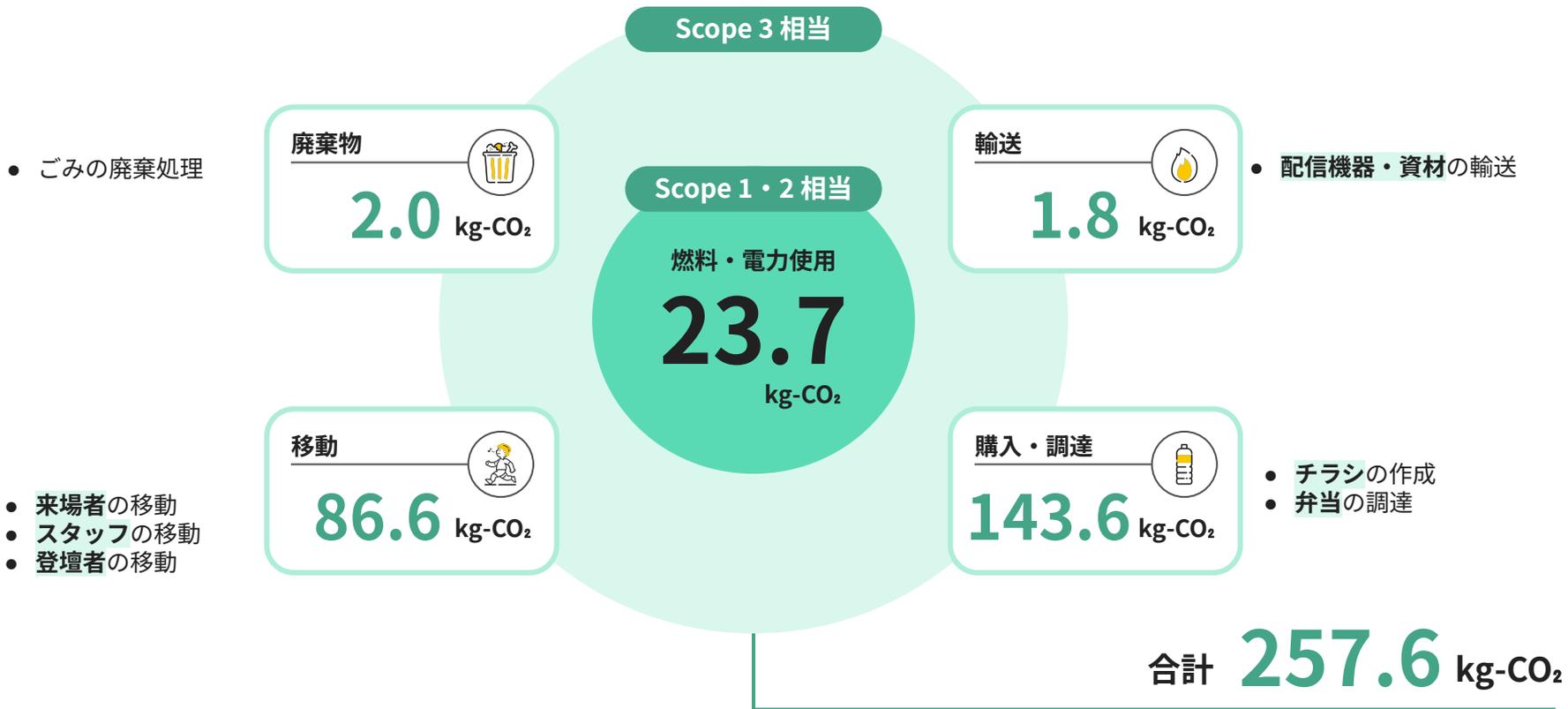
各排出区分の排出量結果

購入が最も大きく、次いで会場使用に伴うCO₂排出量が多い結果に

排出量は全体として**258 kg**となり、購入、移動、会場使用に伴うエネルギー使用の順番に大きな結果になった。第一回目同様にオンライン配信の活用、また場所の特性による移動の減少・公共交通機関の利用により、イベントで大きくなる傾向である「移動」のCO₂排出量が大きく抑えられたと考えられる。

区分	内容	排出量 [t-CO ₂ eq]	排出量 [kg-CO ₂ eq]	排出割合 [%]
Scope 1	会場での燃料・ガス使用	0.00248	2.48	1.0
Scope 2	会場での電力使用	0.0212	21.2	8.2
Scope 3	移動	0.0866	86.6	33.6
	輸送	0.00183	1.83	0.7
	購入	0.144	143.6	55.7
	廃棄	0.00198	2.0	0.8
合計		0.2576	257.6	100

各CO2排出量のイメージ





詳細内訳：Scope 1, 2

会場使用に伴うCO2排出量

区分	内容	排出係数 [単位]	活動量① [単位]	活動量② [単位]	排出量 [kg-CO ₂ eq]
Scope 1	会場での燃料・ガス使用	2.05 [t-CO ₂ / 千m ²]	1.21 [m ²]	-	2.5
Scope 2	会場での電力使用	0.000423 [t-CO ₂ / kWh]	50.13 [kWh]	-	21.2

詳細内訳：Scope 3

イベントの運営に係る会場使用以外のCO2排出量

Scope 3	内容	排出係数 [単位]	活動量① [単位]	活動量② [単位]	排出量 [kg-CO ₂ eq]
移動	登壇者の移動	1.85 [kg-CO ₂ /千円]	21580 [円]		40.0
	スタッフの移動	1.85 [kg-CO ₂ /千円]	17 [人]	360 [円]	11.3
	東京都職員の移動	1.85 [kg-CO ₂ /千円]	3 [人]	420 [円]	2.34
	会場来場者の移動	1.85 [kg-CO ₂ /千円]	17754 [円]		32.9
輸送	機材の輸送	2.29 [kg-CO ₂ /L]	2 [km]×2÷10[km/L]	2 [台]	1.83
購入	弁当の購入	3.52 [kg-CO ₂ eq/千円]	879 [円]	30 [個]	92.7
	お茶の購入	3.51 [kg-CO ₂ eq/千円]	111 [円]	30 [個]	11.7
	紙の購入 (東京都)	1.83 [kg-CO ₂ eq/kg]	3100 [枚]	6.5 [g/枚]	36.8
	紙の購入 (台本用)	1.83 [kg-CO ₂ eq/kg]	200 [枚]	6.5 [g/枚]	2.37
廃棄	廃棄 (燃えるゴミ)	0.132 [kg-CO ₂ e/kg]	0.0128 [t]		1.69
	廃棄 (プラスチック等)	0.821 [kg-CO ₂ e/kg]	0.000133 [t]		0.109
	廃棄 (金属等)	0.0122 [kg-CO ₂ e/kg]	0.000722 [t]		0.00878
	紙の廃棄 (台本用)	0.13 [kg-CO ₂ eq/kg]	200 [枚]	6.5 [g/枚]	0.171



CO2排出量の算出方法



Scope 2の算定方法

Scope 1に関しては利用なしのため略

Scope 1,2に関して、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.5）上の排出原単位を用いて以下活動に関して算出を行った。

活動	算定方法
都市ガス使用	<ul style="list-style-type: none">● 過去会場実績（2024年度）を参照し、年間消費量を延べ床面積・使用時間で除し、イベント開催における都市ガス消費量を想定した。排出係数を掛け、CO2排出量を算出した。<ul style="list-style-type: none">○ 参照) https://www.iino.co.jp/kaiun/csr/files/common-detalist_2025.pdf#page=2
電気使用	<ul style="list-style-type: none">● 過去会場実績（2024年度）を参照し、年間消費量を延べ床面積・使用時間で除し、イベント開催における電力消費量を想定した。排出係数を掛け、CO2排出量を算出した。<ul style="list-style-type: none">○ 参照) https://www.iino.co.jp/kaiun/csr/files/common-detalist_2025.pdf#page=2



Scope 3の算出方法

Scope 3算出方法①：「移動」と「輸送」

Scope 3に関して、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.5）上の排出原単位を用いて以下活動に関して算出を行った。

※輸送に関しては一部「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」の排出原単位を使用した。

活動	算定方法
移動	<p>以下仮定にて、企業住所⇔会場（往復）の交通費を特定（参照：Google MAP）した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 開催地域の特性を鑑み、旅客鉄道の利用による来訪と仮定2. 乗り換えが少ないルートと仮定3. 次点として時間が短いルートと仮定4. 複数拠点ある際は本社からの移動と仮定5. 本社が都外の場合、かつ支店不明の場合は都内の本部支店からの来場と仮定6. 徒歩での来訪と想定される場合には0円とする7. 住所不明の場合は来場者ごと、登壇者ごとの平均金額を充てる <p>上記から算出された全体の推計交通費に排出原単位を乗じて算定した。</p>
輸送	<p>テレビ朝日映像株式会社⇔会場（往復）での配信機材、資材等の輸送を想定し、テレビ朝日映像株式会社からヒアリングを行った以下情報に排出原単位を乗じて算定した。</p> <ul style="list-style-type: none">● 燃費：10 km/L● 距離：2 km（片道）（参照：Google MAP）● 台数：2 台（全て上記と同程度の車と仮定）



Scope 3の算出方法

Scope 3算出方法②：「購入」と「廃棄」

Scope 3に関して、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.5）上の排出原単位を用いて以下活動に関して算出を行った。

活動	算定方法
購入	<p>本イベントに係る主な購入品目（弁当、お茶、紙等）の購入費（紙は推計購入重量）に排出原単位を乗じて算出した。</p> <p>紙の重量は以下URLより1枚あたり6.5 gと仮定した。</p> <p>https://raksul.com/guide/paper/flyer-thickness-and-weight/#pure_paper</p> <p>■条件</p> <ul style="list-style-type: none">● 用紙：普通紙(上質)● 用紙のサイズ：A4● 用紙の厚さ：標準（90 kg）
廃棄	<p>本イベントでの廃棄物重量をごみ換算表（千代田区収集計算シート）を参照し、重量を算出した。各ごみの排出係数を掛け、CO2排出量を算出した（ゴミ袋を45L、レジ袋を10Lとした）。</p> <p>https://www.city.chiyoda.lg.jp/documents/1962/kesansheet_1.xls</p> <p>紙の廃棄に関しては台本用（200枚）のみ廃棄と仮定し、排出原単位を乗じて算定した。</p>



Appendix :
本イベントにおけるカーボンオフセットに関して



■ 本Jクレジット選定の理由

過去に国の補助金を受けて、自宅に太陽光発電設備を導入された、**東京都を含む全国**の家庭の努力によって生み出されたクレジットという点から本クレジットを選定しております。

家庭における太陽光発電設備の導入による CO2 排出削減プロジェクト

¥7,213/t-CO2 (税込)

プロジェクト概要

■概要 (削減方法)

家庭において消費する系統電力の一部を太陽光発電設備の導入により代替し CO2 排出量を削減する。

■詳細情報

適用方法論：太陽光発電設備の導入 [方法論番号：EN -R-002 Ver.2.3]

クレジット認証番号：1904307 [プロジェクト番号：P43]

プロジェクト種別：J-クレジット (プログラム型)

プロジェクト代表実施者：北電総合設計株式会社

プロジェクト実施者 (代表者以外)：グリーン・リンケージ倶楽部 (太陽光発電)
削減活動リストに示される各家庭

実施場所：全国

認証量：191,074 (t-CO2)

再生エネルギー量：441,678 (MWh)

経団連カーボンニュートラル行動計画への利用：可

認証申請日：2023/02/07

設備稼働日：2011/04/22

※購入電力量に対し、1t-CO2 あたりで電力量換算した値 (単位：MWh) にて無効化処理する場合、再生エネルギー調達量として CDP、SBT、RE100への報告に活用可能です。

※販売最小単位は 1t-CO2 となります。

J-クレジット制度プロジェクト番号：P43

「プロジェクト計画書」 (https://japancredit.go.jp/pdf/jcprd/P00043_1.pdf)

「モニタリング報告書」 (https://japancredit.go.jp/pdf/certification/P00043_r7_1.pdf)

「検証報告書」 (https://japancredit.go.jp/pdf/certification/P00043_r7_2.pdf)

をもとに株式会社イトーキが作成。

J-クレジット/オフセット証明書

テレビ朝日映像株式会社 様

CO₂無効化量

1 t-CO₂

オフセットの対象	テレビ朝日映像株式会社
オフセットの対象範囲	東京都から受託したGX普及啓発シンポジウム（2026年2月19日開催）の運営にかかる排出量
プロジェクト名	家庭における太陽光発電設備の導入による CO ₂ 排出削減プロジェクト
プロジェクト代表実施者名	北電総合設計株式会社
クレジット認証番号	1904307
クレジット特定番号	JCL-400-000-008-798-453
クレジット無効化実施日	2026年02月17日

以上のようにカーボンクレジットを無効化することによって、上記対象のカーボンオフセットを完了し、気候変動対策としての二酸化炭素の削減に貢献したことを、ここに証明いたします。

管理番号：ED-CO20260217-0001
2026年02月17日
東京都カーボンクレジットマーケット

 東京都





お問い合わせ

ご不明な点やご相談など、
お気軽にお問い合わせください。



success_gov@e-dash.io



e-dashホームページ

<https://e-dash.io>



e-dash Carbon Offset

<https://carbon-offset.e-dash.io>